



## 臨床研究に関する情報の公開

作成日:2023/04/21

研究課題名	慢性腎臓病・血管炎症例の Glycocalyx と臨床的特徴及び予後関連の解析
研究の対象	2000年から2023年までに田附興風会 医学研究所 北野病院にて腎生検を受け、日本腎臓学会の運営する腎臓病総合レジストリーへの参加を希望された方
研究目的・方法	<p>慢性腎臓病は腎臓の働き(GFR)が 60ml/分/1.73m<sup>2</sup> 未満に低下するもしくは尿潜血及び蛋白尿等の尿所見異常が 3 か月以上を指す。20 歳以上の成人の 8 人に 1 人ほどいると考えられ、早期介入により透析療法が必要となる時期を遅らせ、生命予後の改善が期待できることから新たな国民病として知られている。慢性腎臓病は動脈硬化性疾患の高リスク病態としても知られており、血圧・脂質・糖代謝などの古典的危険因子のほかに CKD 特有の非古典的危険因子により慢性的に動脈硬化が進行することが知られている。</p> <p>一方で、急性期の動脈炎を伴う腎臓病として、IgA 血管炎、急速進行性糸球体腎炎、抗糸球体基底膜腎炎が知られている。これらは難病指定疾患として認定されている疾患であり、急性期の対応により救命及び腎予後の改善に繋がることが知られている。これらの疾患は動脈炎により発症することが知られているが、動脈の炎症程度を直接的に評価する手法および、動脈の炎症の程度が腎予後や生命予後と関与するののかについては未だ十分に知られていない。</p> <p>血管内皮細胞表面に存在する糖蛋白や多糖類からなる構造物である glycocalyx が破綻すると、血球と内皮細胞間での過剰な免疫反応が起こる。慢性腎臓病患者と動脈炎により発症するとされる IgA 血管炎・急速進行性糸球体腎炎・抗糸球体基底膜腎炎患者での glycocalyx の評価・腎予後との関与を行うことで、各疾患の病態解明・新たな腎予後マーカーの発見につながると考える。</p> <p>医の倫理委員会承認日～2027年3月31日</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：病歴、採血所見、治療歴、腎予後、生命予後 試料：血液、腎生検で採取した腎組織
試料・情報(研究に用いられる情報にかかわる資料を含む)の保管及び廃棄の方法	試料は腎臓内科で保管している腎組織標本及び研究室で管理している血清保存を使用し、後の検体は破棄する。医療情報は研究終了後には破棄する。
研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者等の研究に係る利益相反に関する状況	北野病院腎臓内科研究費にて実施する。このため、資金提供者が研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与することはなく、利益相反はない。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。



照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20

公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院

電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867

腎泌尿器センター 腎臓内科 副部長 半田貴也

研究責任者：腎泌尿器センター 腎臓内科 主任部長 塚本 達雄